

二十四、若杉山と神功皇后伝説

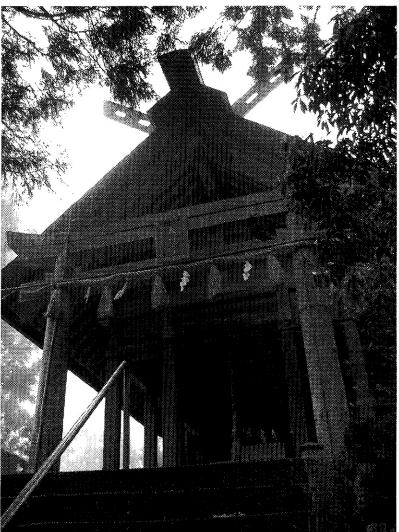
血塗らずして勝利を收め、無事に帰還した皇后は、仲哀天皇が眠る権日の宮に立ち寄り、その際生色を失わなかつた杉枝を鎧と共に境内に埋めました。すると、この杉枝が茂り、綾杉と呼ばれました。

その後、神功皇后が太祖神社へお礼参りする際、この綾杉を分けて山に植えたことから「分杉山」と呼ばれ、それが時代の流れで「若杉山」へと変わつていつたとされます。

神功皇后は後にこの社を改築し、伊弉諾尊（太祖）を中座に、右に八幡大神、聖母大明神、宝満明神、左に天照大神、志賀大明神、住吉大神の合計七神を奉つたとされます。

この物語について『篠栗町誌（民俗編）』は、神功皇后が太祖神社にお参りされる際、臨月であるお腹をかかえ山を登つてゐる途中、急坂にさしかかると大岩に手を付き、横になり一息つかれたとあります。そこでこの岩のことを「押さえ石」→「押さ石（おさいし）」と言い、横になつたところは「横岩（よこいば）」と言われ、今でも地名として残つています。また、太祖神社上宮から一町寅の方角にある八大龍王窟周辺には、神功皇后が自ら植えたとされる矢籠の竹林があるとされます。

その後、神功皇后は筑紫の蚊田（宇美八幡宮）で応神天皇を産んだと言われています。



太祖神社上宮

参考資料

『西日本古代紀行 神功皇后風土記』

河村哲夫（西日本新聞社）

『新訂 古事記』 武田祐吉（訳注）（角川書店）

『筑前若杉郷土誌』 合屋武城

『篠栗町誌』 篠栗町